



第5戦

SUZUKA GT 300km RACE

鈴鹿サーキット

予選

8月23日(土)

天候: 晴れ コース状況: ドライ

SUPER GTシリーズ第5戦は夏休みの鈴鹿サーキットにおいて開催。前回までのレース結果によりサクセスウェイトは97kgとなったが、GT300クラスのウェイトの上限は50kgであり規定のウェイトを搭載。今回のレースを前に新たな参加条件が発表され、エアリストラクター径が29.97mmに狭められ、スキッドブロックのスペーサー厚さが18mmとなり車高が高くなった。さらに給油リストラクター径は狭いまままで戦わなければならない。

予選：7位



真夏の鈴鹿は例年以上に暑く、公式練習の始まった10時過ぎで既に気温は32℃という猛暑。このセッションではいつものように堤が車両の状態とタイヤを確認しセッティングを進め、平良がロングランを担当。トップとは0.309秒差の1分59秒229で6位、ブリヂストンユーザーのトップにつけ、まずまずの走り出しとなった。

公式予選Q1は気温34℃、路面温度47℃の15時15分に始まった。Q1は前戦のランキング順で14台ずつの2組に分かれてのセッション。HYPER WATER INGING GR86 GTはB組に区分され、15時33分から10分間のセッションとなった。Q1担当の平良は計測2周でタイヤを暖め3周目に1分58秒705で5位につけ、これでトップ9に入り無事にQ2への進出を決めた。

18台の車両で上位のグリッドを争うQ2は、GT500クラスのQ1が終わりやや路面温度が下がった16時8分に始まった。堤は3周目に1分57秒803をマークしブリヂストンタイヤユーザー最上位の7位となり、これでグリッドが決定、4列目から上位入賞を目指すことになった。

24日の決勝300kmレースは15時30分にスタート予定。



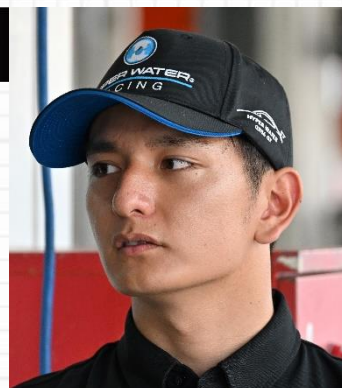


ドライバー 堤 優威

「アタック自体は良かったのですが、あとコンマ1秒上げられたかなという状態だったので、そこはちょっと失敗でした。でもそれがうまくいったとしても順位的に大きく変わることはなかったのかなと思います。決勝はスープラと違って車高が違うなど厳しい状況ですが、練習走行を含めて上り調子で来ているし、しっかり走り切ってポイントを取れるよう頑張ります」

ドライバー 平良 響

「50kgのウェイトだけではなく車高を上げられダウンフォースも減っている中での走り出しとなりましたが、練習走行では良くない状況でした。それでもセッティングの変更を行い良い方向に行きました。しっかり集中して走りましたので5位というのはまずまずです。明日は追い上げて(給油リストラクターがあるので給油に時間を要して)ピットで抜かれてまた追い上げるというレースになると思います」



監督 加藤 寛規

「できる限りのところの順位は取れたかなと思います。ウェイトを積んだりリストラクターも元に戻されたり今回はいろんなハンディを背負っているのですが、そんな中でもしっかりまとめることができましたし、走り始めからドライバーとエンジニアがしっかり打ち合わせをしてこだわったセッティングを施しタイムにつなげてくれたので、この調子であれば決勝レースをうまくまとめて上位フィニッシュを目指します」



HYPER WATER

GR

BRIDGESTONE

TGR-DC

TGR-D

ADVICS

PMU

金星工業

MUTA

トヨタモータース

山崎モータース

ELI HOMES

MOTUL

MS COLLECTION

SANKI SHOKAI

TONE

pepsi

NAKAMURA KOSHIA

Kate

DOHURA

OHILINS

TMS

ORL

AMS MEGA LIFE

VIEWTEC